

秘密外交の展開

1915年以降、協商国側は、中立国や中立の勢力を味方にするために、戦後の領土分配を約束し協力させた。典型的なものは次の通りである。

- 1) 協商国側から、ロンドン秘密条約(1915)で「未回収のイタリア」の譲渡を保証された【1: 】は、1915年5月、協商国側について。
- 2) イギリスは、協商国側の結束を固めるため、終戦後の【2: 】の領土分割について、フランス・ロシアと協定を結んだ。これが【3: 】(1916年5月)である。これは秘密協定だったが、1917年11月ロシア革命政権が暴露したため全世界の知るところとなり、アラブ側は憤激した。
- 3) イギリスは、アラブ人とユダヤ人の双方から戦争協力を得るために、オスマン帝国解体後の支配領域について矛盾する約束をした。イギリス当局者のミスや個人プレーの結果などではなく、戦後もアラブ人、ユダヤ人が対立する状況を作り出し調停者となって影響力を確保し続けようとの意図があった。明らかに現在にいたる紛争の原因をつくってしまった。なお、今日のサウジアラビア王国・イラク王国・トランスヨルダン王国が成立した経過は、No.147で詳述した。
 - ①【4: 】(1915年10月)・・・イギリスの駐エジプト高等弁務官マクマホンが、アラブの指導者フセインに、戦争協力を条件に、アラブ人居住区の独占と独立を認めると約束。この結果、アラブはオスマン帝国との戦いを開始した。注：フセインでもフサインでもよい。
 - ②【5: 】(1917年11月)・・・イギリス外相バルフォアが、ユダヤ人のパレスチナでの民族的郷土の設立を約束したもの。
注意：この3文書の歴史的順序は意外と重要。《実際に出题された!》 偶然にも日本語文字列の長い順に古い
フセイン・マクマホン協定 → サイクス・ピコ協定 → バルフォア宣言
(1915年10月) (1916年5月) (1917年11月)

アメリカ合衆国の参戦 1917年4月6日

- 1) 戦争は想定外の長期戦・物量戦となり、海軍力にまさる協商国(連合国)はドイツと海外との貿易を断ち経済封鎖をかけた。これに対抗してドイツは1917年2月、【6: 】を宣言。イギリスの海上封鎖作戦に対抗する逆封鎖作戦である。交戦水域に入った船舶は、国籍を問わず、Uボートで無差別、無警告に撃沈するというものである。
Uボート：潜水艦を意味するドイツ語 Unterseeboot の略。ドイツ軍のUボートはきわめて高性能で乗組員の練度も高く多くの艦船を撃沈した。特にイギリス周辺海域の通商破壊作戦は有効でイギリスは一時窮地に立った。なお第二次世界大戦でもドイツ軍のUボートは連合国軍に恐れられた。第二次世界大戦では日本海軍の潜水艦も恐れられた。
1915年5月7日、ニューヨークから最後の航海に出たイギリスの客船ルシタニア号は、アイルランド沖でドイツ潜水艦(Uボート)から魚雷攻撃をうけて撃沈された。1959人の乗客のうち、1198人が死亡。死亡者の中に100人を越えるアメリカ人が含まれていた。
- 2) アメリカ合衆国参戦の理由 対ドイツ宣戦布告=1917. 4. 6
 - ①実質、英独米の覇権争いとなっているので、ここで【7: 】が勝つと大変なことになるかと判断した。(実際に、ロシア三月革命が起き、ロシアが戦争を継続できない中で、ドイツが有利になっていた。)
 - ②大戦中に【8: 】が中国への進出を強めており(1915年の二十一カ条要求等)、戦後の国際秩序をアメリカのリーダーシップの下に構築するためには参戦が必要である、と判断した。
 - ③ドイツの無制限潜水艦作戦(実質はUボートによる通商破壊作戦)を阻止し、通商を確保するため。
 - ④イギリス・フランスが敗北すれば、アメリカ合衆国に対する負債の支払いが困難になるから。
第二次世界大戦においても、アメリカ合衆国の参戦は十分に遅かった。勃発が1939年9月1日であるのに対して、アメリカ合衆国の参戦は、2年以上も後の1941年12月8日。

総力戦体制とは

- 1) 第一次世界大戦では、【9: 】・【10: 】・【11: 】・【12: 】(順不同)などが実戦使用され、死傷者は莫大な数にのぼった。だが、これは厳密には「総力戦」の意味ではない。
- 2) 戦争の勝敗が個々の戦場では決着せず、それぞれの国内で、いかに全国民を動員して生産し補給体制を整えていくかにかかってくるようになった。こういう有様を【13: 】という。第一次世界大戦で初めて使われた用語である。資源も労働力も精神も、その国の持つすべてのポテンシャルを戦争に注入することを指す。
- 3) 各国で【14: 】が成立した。ロイド=ジョージ内閣(英1916)、クレマンソー内閣(仏1917)、軍部独裁(独1916)等。社会主義者の多くも「祖国防衛のため」に戦争に協力した。反戦平和を唱えた【15: 】も防衛戦争を正当なものとして認め国際的使命を放棄。1920年、正式に解散した。
- 4) 挙国一致体制が作り出した総力戦体制によって、民衆の生活水準はひどく悪化した。生活必需品よりも【16: 】が優先された。出征した男性にかわって、青少年と女性が工場で労働し、電車を運転した。開戦当初は挙国一致の総力戦体制を支えてきた民衆も、戦争が長引くと不満が高まっていく。特に海上封鎖で交易ができなくなったドイツ、オーストリア、ロシアでは生活必需品の多くが底をつき、民衆の不満は高まった。
- 5) 【17: 】の人々が、兵士、労働者として大量に動員された。イギリスは、インド相モンターギューが、インドの戦争協力・独立運動停止を条件に自治を約束し、インドから兵士150万人をメソポタミア戦線に送り込んだ。また、大戦勃発後にエジプトを正式に保護国とした。フランスは、アルジェリア、モロッコなどアフリカ植民地の人々を約100万人動員したほか、**ヴェトナム**からも兵士を動員した。

- 6) 協商国側の国々では挙国一致の総力戦体制を支える代償として戦後の若干の社会改革が約束された。女性の奮闘に対して、イギリスでは1918年に、30歳以上、年間5ポンド以上の家賃を支払っている世帯主、或いはその妻、という厳しい条件付きの【18: 】が認められたが、大人の女性すべての参政権が認められたのは、その10年後1928年であった。総力戦協力の見返りは女性にはほとんどなかったと言えよう。

参考小説『西部戦線異状なし』1929年 レマルク著 (1930年に映画化された。)

第一次世界大戦の西部戦線に投入されたドイツ軍志願兵のパウル・ボイメルが戦争の恐怖、苦悩、虚しさを味わい、戦死するまでの物語。ギムナジウム※の担任教師カントレックに言いくるめられ、級友のクロップやミュツレル(またはミュラー)らとともに、半強制的に軍への入隊を志願させられた。登場人物の性格描写が明確で大変面白く、高校生諸君はたぶん一気に読んでしまうだろう。戦友が毒ガス弾で死ぬシーンもある。塹壕の中で主人公のボイメルが蝶を捕ろうと手を伸ばした瞬間に撃たれて物語は唐突に終わる。彼が戦死した1918年10月のある日の司令部報告には「西部戦線異状なし、報告すべき件なし」と書かれていた。なお西武戦線と書いてはならない。

※ 主に大学への進学を希望する子どもたちが進学する9年制(当時)の学校で、日本でいう中高一貫教育にあたる。

第一次世界大戦の終わり方

ドイツを中心に述べる

- 1) 第一次世界大戦下における最大の事件は、言うまでもなく1917年の【19: 】である。
- 2) 経済封鎖により厳しい統制経済を行っていたドイツでは、1918年1月、大ストライキが発生。1918年3月、ドイツはソヴィエト=ロシアと単独講和を結び、西部戦線で攻勢に出たが、8月以降協商国(連合国)の反撃を受けた。
- 3) この後、次のように同盟側諸国は降伏した。
9月29日 **ブルガリア降伏** / 10月 **オスマン帝国降伏** / 10月30日 **オーストリア降伏**
- 4) ドイツは、10月には、帝政存続のため本格的議会政治の体制を整えようとした。停戦交渉を有利に進めるため、キール軍港内の艦隊に出撃を命じたが、ブルジョワ出身者が多い海軍指導部が立てた無謀な作戦計画に水兵たちは反発し、1918年11月3日、【20: 】の水兵反乱が起き、これが全国に拡大した。各地に労働者・兵士の評議会(【21: 】)成立。皇帝【22: 】はオランダに亡命。**ドイツ帝国は崩壊し、共和政が樹立された。**
- 5) 1918年11月11日 臨時政府は、協商国(連合国)に降伏、休戦条約(ドイツ休戦条約)が、パリ北東のコンピエーニュの森で締結され、**第一次世界大戦は終結した。**

1940. 6. 22、第二次世界大戦中、ヒトラー総統自らこのコンピエーニュを訪れ、保存されていたフォッシュ元帥の客車を引き出して、第一次大戦の降伏調印式と同じようにフランス側に降伏調印を迫ったことでも知られている。パリ占領に際し、革命で退位したヴェルヘルム2世は亡命先からヒトラーに祝電を打ったと言われている。

第一次世界大戦と日本

項目のみ列挙する。

1) 主な事件

1914年	シーメンス事件、山本権兵衛内閣退陣。大隈重信内閣成立。 第二次大隈内閣、日英同盟を理由に参戦。 ドイツの青島と山東省の権益を接收、赤道以北のドイツ領南洋諸島の一部を占領。
1915年	第二次大隈内閣の加藤高明外相、袁世凱政権に二十一カ条の要求。大部分を認めさせる。
1916年	第二次大隈内閣、第四次日露協約締結。 寺内正毅内閣、戦後の山東省と赤道以北の南洋諸島のドイツ権益に関して、英仏などと密約。 (イギリスが日本艦隊の地中海派遣を要請した)
1917年	段祺瑞政権に巨額の経済借款を与える(西原借款)~1918年
1918年	石井・ランシング協定締結。 シベリア出兵(~1922年) 米騒動、寺内正毅内閣総辞職。原敬内閣成立。

2) 関連キーワード

大戦景気 成金 船成金 在華紡 化学工業の勃興
吉野作造 民本主義

2007 上智大学(抜粋)

問1 第一次世界大戦に関する説明で誤っているものはどれか。

- a サライェヴォを訪問したオーストリアの帝位継承者夫妻を、セルビアの学生が暗殺したことが、戦争勃発の契機となった。
- b ヨーロッパの帝国主義の国々を中心に、およそ30カ国が参戦した戦争である。
- c 戦争勃発後に同盟国側についていたのは、ドイツ、オーストリア、イタリアにオスマン帝国である。さらに1915年にブルガリアが加わった。
- d 1914年のタンネンベルクの戦いで勝利したドイツのヒンデンブルクは、その後大統領に就任している。
- e イーブルの戦いでドイツ軍は初めて毒ガスを使用している。

問1 c

2010 関西学院大学(抜粋)

③ 第一次世界大戦で使われた武器や兵器でないものはどれか。

- a. 戦車
- b. 毒ガス
- c. 潜水艦
- d. ジェット機
- e. 機関銃

③ d